

朗読劇

思い出の中に、街は

—旅館「針惣」ものがたり—

街も建物も、思い出を宿していまここにある。

出演／飯沼 由和

永澤 真美

作／西大立目 祥子

演出／伊藤 み弥

建物解説／斎藤 広通

製作／齊藤 衣代

と き／2018年11月18日(日)

午前の部／受付・開場10:00 30名限定

午後の部／受付・開場13:30 30名限定

と ころ／旧針惣旅館 (杜の都景観重要建造物)

(仙台市若林区南材木町 ☞裏面地図をご覧ください)

参加費／500円

(資料・お茶とお菓子付き)

▶お申し込み／10月15日(月)10時より電話受付。午前、午後各先着30名。☎080-5558-4351(齊藤)

旧針惣旅館は、仙台市若林区南材木町の通りに建つ、白漆喰の店蔵と黒瓦をのせた主屋の堂々とした建物です。この建物が、2017年12月に仙台市の「杜の都景観重要建造物」に指定されました。指定を祝い、建物の価値を共有するために、記念の会を開催することにしました。ここでどんな暮らしが営まれてきたのか、街にはどんなにぎわいがあったのか。歴史を刻んできた建物を通して見えてくる街と家族の物語を、座敷をお借りして上演します。

主催／杜の都まちなか倶楽部 ☎080-5558-4351(齊藤)

後援／仙台市 協力／粹々まちなかプロジェクト

平成30年度若林区まちづくり活動助成事業

南材木町、旅館「針惣」の物語に耳をかたむけよう。

■プログラム

◎午前の部

- 10:00 受付・開場・お庭見学
- 10:20 建物解説／講師 齋藤広通
「旧針惣旅館・店蔵と主屋の建築的価値」
- 10:45 若林城下町解説／
講師 西大立目祥子「蔵のまち、南材木町を支えた人々」
- 11:00 朗読劇上演
- 11:30 ティータイム
- 12:00 終了

※天候や都合により、内容が変更になる場合があります。

■プロフィール

◎出演

飯沼 由和 (いぬまよしかず)

言言(kotokoto)代表。東京での活動を経て、2011年より拠点を仙台に移す。主な出演作に、SENDAI座プロジェクト『十二人の怒れる男』、言言『びんぼう君』、演劇公演『ファミリーツリー』、NHK FMシアター『揺れる、ひまわり』など。



永澤 真美 (ながさわまみ)

フリーの役者として、幼児親子向けのプログラムから地域密着型の芝居までさまざまな公演にかかわる。主な出演作に第3回仙台劇のまち戯曲賞大賞作品『ミチユキ→キサラギ』、SENDAI座プロジェクト『鳴子温泉郷物語 タルタロスの足湯』、『蛙昇天』など。



◎演出

伊藤 み弥 (いとうみや)

主な演出作品にSENDAI座プロジェクト公演『十二人の怒れる男』、仙台オペラ協会公演『修道女アンジェリカ』『カヴァレリア・ルスティカーナ』、朗読劇『死神の精度』『星の王子さま』、東日本大震災をテーマに制作した『ファミリーツリー』など。日本演出者協会会員。



◎作

西大立目 祥子 (にしおおたちめしょうこ)

フリーライター。宮城県内を中心に、住民による地域づくりや地域雑誌の編集、歴史的建造物の保存活動にかかわる。著書に『仙台とおき散歩道』『寄り道草仙台まち歩き』など。

◎建物解説

齋藤 広通 (さいとうひろみち)

元・仙台工業高校建築科教諭。2016年、在仙研究者と「近代仙台研究会」を立ち上げ、現在、事務局長。宮城県内の近代建築の調査研究や、まち歩きを企画実践し建物の見方や価値をダイレクトに伝える活動を行っている。NHKカルチャー講師。

◎旅館「針惣」の建物と物語

店蔵は明治の中頃、主屋は昭和7年(1932)の建築。明治時代から六郷などに広大な農地を所有する仙台市内でも指折りの大地主でしたが、戦後は農地解放で土地を失ったこともあり、建物を生かし、昭和24年から昭和62年まで旅館を営っていました。政治家の市川房江、作家の幸田文をはじめ、文人、研究者など著名な人々が宿泊したことで知られています。宮城県沖地震、東日本大震災で大きな被害を受けた後も修復され、大切に守られてきました。



仙台市地下鉄南北線「河原町」下車。北1出口より徒歩7分(エレベーターあり)。南1出口より徒歩5分。駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。



建築物概要 ▶ 建築年/店蔵: 明治中期、主屋: 昭和7(1932)年 ▶ 構造・規模/店蔵: 土蔵造り、瓦葺、二階建、主屋: 木造、瓦葺(洋室棟 瓦葺)、一部二階建 ▶ 外部仕上/店蔵: 海鼠壁、擬石左官仕上、主屋: 黒漆喰一部下見板貼(洋室棟擬石左官仕上・装飾付) ▶ 総延床面積/540.88㎡ ▶ 指定日/平成29年12月20日

社の都まちなか倶楽部

約15年にわたり、若林区河原町の仙南堂薬店をメイン会場に開催してきた「うれし楽し蔵deひなまつり」の実行委員会メンバーが中心となり結成しました。ひな人形を見ながら町を回遊し建物やまちへの関心を育むこれまでの活動をさらに1歩進め、1棟を集中的に取り上げながら、その価値や家の物語を伝えようと考えています。代表/齋藤衣代。